新編伊勢名所拾遺

へ4
1329
1

利
門
1329
編
巻
1

新編伊勢名所拾遺集序

京都帝国大学図書

化

昔者天日別命奉神倭磐余彦天皇勅而東馬遂逐伊勢津彦命以得此國矣爾来日別之苗裔世守于此至纏向珠城宮御宇太神御遷幸之時日別之曾孫大若子命出以卿導奏其風俗其謂

大若子命者是度會神主之上祖也既
而太神詫于倭媛皇女曰神風伊勢國
則常世之浪重浪歸國朝日夕日來向
國浪音風音弓矢鞆音不聞國也因茲
代々聖主尚敬重以寄園厨處々國造
亦欽奉敢獻山川運移世異郡縣咸屬
他人之手而且不知其名旅戲裏哉屬
日余因姓龍負玄新編伊勢名所拾遺
集以貺我神氏負玄耽讀古典舊章深
憤夫名區之恍惚乎不可視者撮取万
葉集以降廿一代勅撰和歌集及以國
史家牒神宮祕録雜記中詠和歌而著

明上以表檢之其志操可嘉尚矣自風土記
隱微而之足徵之書於其遺漏俟博洽
之君子而已延寶己未冬十月甲子尚金
散人龍氏謹識

新編伊勢名所拾遺集上卷目録

伊勢十三郡　割飯高安濃二郡置南北東西二郡因茲為十五郡

度會　多氣　飯野　飯高南北　一志
安濃東西　安藝　河曲　三重
朝明　員辨　鈴鹿　奈名

一伊勢神　度會郡
一伊勢海
一五十鈴川　度會郡
一磯宮　度會郡
一五百枝板　度會郡
一伊佐奈岐宮　度會郡
一伊佐奈旅宮　度會郡

一岩出　度會郡
一岩波里　度會郡
一五十師原　鈴鹿郡
一一志浦　一志郡
一礒等濱　志摩國
一伊勢雄宮
一去来見山
一濱萩　度會郡
一濱村　三重郡
一錦嶋
一伊氣浦　度會郡
一齋宮　多氣郡
一泉野　鈴鹿郡
一一志池　一志郡
一伊良虞嶋　答志國
一家田松
一猫井
一林崎　度會郡
一針川
一西復山

一星河　員辨郡
一菩提山　度會郡
一乾懐浦
一千枝枝　度會郡
一布引山　是迄花ノ有リ　一志郡
一下部坂　度會郡
一嗚呼浦
一度會河　度会郡
一三井
一鏡宮　度會郡

一星合濱　一志郡
一豊受宮　度會郡
一去頁嶋　度會郡
一千鳥濱　度會郡
一高倉山　度會郡
一忍穂井　度會郡
一小野古江　度会郡
一若松原　川曲郡
一風宮　度會郡
一神道山　度會郡

一隱山　度會郡
一神崎山　度會郡
一河口関　一志郡
一焉崎　志摩國
一神嶋
一瀧原　度會郡
一瀧波山　度会郡
一多氣郡　多氣郡
一多濃郡　飯高郡
一荅志崎　志摩國
一鏡洲　度會郡
一河邊里　度會郡
一甲斐河　飯高郡
一泻浦　志摩國
一瀧宮　度會郡
一高麗山　度会郡
一立石崎　度會郡
一多計河　多氣郡
一高濱　志摩國
一神師浦

一月讀宮　度會郡
一郡追義井　飯高郡
一並宮　度會郡
一渡川　一志郡
一長濱　志摩國
一牟呂山　飯高郡
一内宮　度會郡
一浮鳥山　度會郡
一宇田　多氣郡
一野代宮　桑名郡
一敵嵩　度會郡
一津鳴渡
一流江　度会郡
一七栗湯　一志郡
一村松岸　多氣郡
一内外宮　度會郡
一宇治山　度会郡
一打越濱　度會郡
一宇礼志野　一志郡
一焉合河原　度會郡

一大沼橋　度會郡
一大山　度會郡
一尾津濵　桑名郡
一久岐田関　一志郡
一掃田川　多気郡
一雲津川　一志郡
是迄鳥ゝ有り
下巻
一山田原　度会郡
一焼出里　一志郡
一蒔絵松　度會郡
一毘本里　度會郡
一大淀　多気郡
一芦生浦　志摩國
一栗間　安濃郡
一的形　度会郡
一藤波里　度會郡
一二見浦　度會郡
一藤方　一志郡
一小濵　安濃郡
一天覚寺　度會郡
一天照山　度会郡
一荒木田　度會郡
一朝熊森　度会郡
一芦浦　度會郡
一藤毘山　度會郡
一二見里　度會郡
一笛河　多気郡
一不断橋　安濃郡
一安乎山　度会郡
一朝日宮　度会郡
一荒祭宮　度会郡
一朝熊社　度会郡
一朝熊岳　度会郡
一安養山　度会郡

一阿波賀氣崎　度會郡
一鈴鹿山　鈴鹿郡
一阿古木浦　安濃郡
一綱児之山
一榊宮　度會郡
一櫻木里　度会郡
一鷲嶋　志摩國
一清滝　度會郡
一湯都盤村　飯野郡
一御嶽滝の是迄風ゝ有り　度會郡

一鈴香山　一志郡
一安濃　安濃郡
一安濃郡
一綱代濱
一西行谷　度會郡
一幸橋　多氣郡
一佐佐崎
一湯田野　度會郡
一宮河　度会郡
一御塩殿　度會郡

一御祓橋　度會郡
一末曽ケ瀬　度會郡
一三渡　一志郡
一真熊野　志摩國
一見瀬の
一捨合濱　度會郡
一下樋小の橋　飯高郡
一白良濱　志摩國
一須連宮
一宮浦崎

一三津浦　度會郡
一御河池　多氣郡
一三重河原　三重郡
一乱橋　志摩國
一御岳山
一烏帽子　度會郡
一白子濱　安濃郡
一藻間　志摩國
一澄久山
一志加濱

一撥夷櫻　鈴鹿郡
一目永　三重郡
一関河
一郡我鳩　志摩國
是迄月三百リ

一畫河山　度会郡
一百枝松　度會郡
一鈴鹿山　鈴鹿郡

新編伊勢名所拾遺集上卷

宮城縣図書

伊勢　神宮　度會郡

伊勢國者伊勢津彦神於ハ海を
此國と名付給ふ事ハ天照大神
長祐神武天皇八御時此國を天日別命
に賜ふて治めしめ給ふ事也
附り給ふ故風宮ハ又注連ハ大神
也中ハ内宮二宮八御事也内宮ハ天照皇
太神ト申奉る地神也外宮ハ

天照豊受皇太神とゆをなし天孫降臨ましまして此国を治めの
中祢とて皇孫瓊々杵尊にまして御子の
ゆをしめの給ふ宮殿をまうけ神也とゝ天照大二
宮は通称太神八大廣本号と伝ふ外宮
内宮八五十町あり高間五十町あり
万葉 神風乃伊勢能国者奥津藻毛敷妙敷波乃。塩氣能
味。香乎礼流国乃。味凉文乃。念す高照日之御子
同二 神風の伊勢の国もあはしとおもへばこそ大来皇女
天慶六年日本紀竟宴に大江維時の国常立尊と詠

新勅撰 新勅撰にあり
天乃下おさめしもの始めの五十万世まてに設なりけり
続古今集 文永二年八月十五日内宮御社
立よ南アは神のまもりなれ
続古今 文社立今春秋月又来なりけりあの色も 菅丞相
新千載 君の代のさかりあの小草社緑を祢ろ冬の今 詠人不知
拾遺愚抄 さやけさの月はあをにあらすも天照神と新しき宮
同 君とちの天照神乃去しはてを宮の月
同 久方の天照神乃ゆをかをて世をとひてろん 月
玉葉集 芦原や天照神のみとろの国なつ祢そらの祢 慈円法師

仰集
神風や天照神の末世まで
ちかひの伊勢へ入てそ
てつるひとそ海ゆ
家集
才つくしきたちかへるとしをみる
月清集
我が国は天照神の末の世に
円
わたしてはとゝ玉串
千五百番
天の代の末と思へ
円
日嗣の天照神のかけのきに
須徳院

伊勢の海のちかひに大神宮まいりてよめる
山家集
榊葉に八しほ
支末
この世に伊勢に法の人
円
勅なれはきそいの人伊勢
円
光代の浦の秋風
伊勢宮御師の
時し海のちかひ
後鳥羽院集
元亨元年北御門斎入
うらやきて下は
茅根俊
正通海
度会
行俊

元享元年北條門弟人
君の代を祝ひに移る榊葉は　度會延誠
同
天照神の御心久しき月日と共に咲きそめ　度會貞香
天文十一年太神宮法樂千首
代々重ね君の恵久しき社天照る日の影　四辻宰相中將

伊勢海

伊勢海と八百とをしてひろまれる海浜と
いつりを上志摩國の浦くとむりまち伊勢の
海とうまれる今於山集に入て千ゝと分て志摩
日本紀第三神武紀

加牟加笠能伊齊能千弥能於費異之珂夜異
波臂茂等倍屢之多儀弥能之多儀弥能阿誤
豫之多大弥能異波比茂等倍離千智豆之夜
菜勢
万葉三
伊勢の海の沖つ白波花咲かなつかしき妹が目を見ん　安貴王
同四
いせの海の磯もとゝろに波かけて紀人なれや袖ぬらすらん　笠女
同七
伊勢の海の海人の藻刈りひさごりて波の立ちくる時を知らん　読人不知
同十一
伊勢の海の釣する舟のゆくへ知らず思ひ乱れて人恋ふるかな
同
伊勢の海に鳴き渡る田鶴の声を君ゆゑ家を忘れぬるかな　同
同十三
いせの海人の釣する舟はきよるふなびとの袖ぬれぬらん　同

古今
伊勢の海のつりびと舟をこぎ出でて
月
いせの浦の蜑のをぶねを綱打ちて
月 短冊
伊勢の浦の浦の青貝ひろひあつめ
古今
いせの海の釣なる舟のうへにて
月
心ひとつをきやすからぬ
後撰
伊勢の海にてもあまりたく縄の
月
あまの〳〵やつりをしてをり
月
ねてのあかつきの女のつりする
月
いせの海の塩焼の煙なびかねば
月
伊勢の海のあまの衣なるはたれ
月
伊勢の海のあまの袖にもはりけりの波のきてのあつかん
業平

月
勝々の浦やいくいせの海の浦にはまりあり伊勢
月
伊勢の海の塩のまさるかたつかりにつりする
月
伊勢の海の塩のまさるかたつかりにつりする
月
いせの海の釣のをぶねの浦にはまりあり伊勢
月
伊勢の海の塩のまさるかたつかりにつりする
千載
塩なるいせの海やあまのつりする
月
いわるをかくそなれいせの海の塩せにかるあまの袖
言俊忠
月
塩たるる伊勢おの海の塩せにかるあまの袖
新勅撰
伊勢の海の塩せにかるあまの袖

後撰 伊勢の海に海人の藻刈る事なれば
いせの海に海人の藻刈りてふ言葉の
続古今 伊勢の海の波の上こそ絶えぬ
いせの海に海人の藻刈りてふ神の
前大納言基良 衣笠前内大臣
伊勢の海に海人の藻塩焼くてふ
後拾遺 いせの海をさよ衣むすびてふ
僧正行意
伊勢の海に網のうを縄かけてふ
前中納言雅言
新後撰 思ひなしかはるべきかな伊勢に
玉葉 あまの藻刈りてふ神の
高階宗成
あまの藻刈りてふ
ものすごくあまの藻刈りてふ
土御門院
前原兼房
伊勢の海人の藻刈りを縄かけてふ
続千載 いせの海や今も天照神風
法眼源美
伊勢の海や沖の白波
桂大納言冬教
いせの海の藻刈りてふ
後反拾遺 伊勢の海の藻刈りてふ
律守因助
いせの海の藻刈りてふ
為家
海人のいせの藻刈りてふ
前大政大臣
伊勢の海にあまの藻刈りてふ
伏見院
いせの海の藻刈りてふ
崇徳院

新千載
伊勢の海の塩屋のけぶりかぜをいたみ
なびきてのちぞ人もしりける　前大僧正源惠
月
いせの海の塩屋のうきなわ浮きぬしもたれかしらんとぞ思ふ　入道前大納言大臣
月
伊勢の海の釣舟の塩屋のけぶりかぜをいたみ　藤人左近
月
いせの海の塩屋のけぶりかぜをいたみ　道政法師
新後拾遺
伊勢の海の塩屋の焼煙なびきのはやみ　律守四反
新後拾遺
ちはやぶるやしろの神の塩なれて　持中納言雅縁
月
むかし新いせおの海の神なれば　大宰大弐重家
月
月をてらす伊勢おの塩屋の焼煙　律守四夏
月
伊勢の塩屋の塩なれてたなびくかぜ流れてたなびくかぜ　尤無教定
月
いせの海の釣のうきなわ　内院左大臣

新采集
伊勢の海のあまの塩屋の月ぞ　中務宗良
拾玉
いせの海にうきあつめて塩屋の月ぞ　藤原
月
うきなびく浦の塩屋は月ぞ　俊成
拾集
神風やいせの浦の塩屋の月　法勝寺
家集
うらなびくてやはたの月ぞ　有家
月
さらぬ月ぞ海ぞ心しいせの海の塩屋の月ぞ　安宮
月
浪のうへの月ぞ見ひろいせの海の塩屋の月ぞ　元輔
月
うらなびくはたのひろいせの海の塩屋なく縄の月ぞ　元真
月
伊勢の海むらぎもの塩屋なく月ぞ　定家
月
いせの海の塩屋の月ぞ　家隆

俳集

波よせぬ　いせの海人の　塩焼の　煙ぞ　たちのぼりける　順徳院

同

伊勢の海人の　塩焼の　煙ぞ　たちのぼりける　順徳院

同

いせの塩焼　釣舟の　煙ぞ　たちのぼりける　家集

伊勢海の　塩焼　海人の　ぬれ衣　なれぬ　あなうの　元真

同

いせの海の　うらの　塩焼　ぬれぬ　まきしも　同

同

伊勢の海の　塩焼　海人の　ぬれ衣　なれぬ　あなうの　六百番　公之

同

いせの海人の　塩焼　ぬれぬ　家隆

同

伊勢の海の　塩焼　ぬれぬ　千五百番　家隆

千五百番

いせの海の　塩焼　海人の　ぬれ衣　なれぬ　あなうの　六帖　隆信

六帖

伊勢の海の　塩焼　海人の　ぬれ衣　なれぬ　あなうの　伊勢

同

いせの塩焼　ぬれぬ　ぬれぬ　ぬれぬ　ぬれぬ　新六帖　雅経

新六帖

伊勢の海の　海人の　儀の　井の　色の　ぬれぬ　後草庵集　家隆

後草庵集

いせの海の　ぬれぬ　塩焼　塩焼　ぬれぬ　絵合巻　知家

絵合巻

いせの海の　塩焼の　煙　ぬれぬ　ぬれぬ　夫木　光俊

夫木

伊勢の海の　波よ　ぬれぬ　秋の　月の　風の　元真　紀倉

同

いせの海の　波の　うらの　人の　ぬれぬ　縄　宜福門院

同

ぬれぬ　いせの海の　塩焼　ぬれぬ　ぬれぬ　ぬれぬ　後鳥羽院

同

伊勢の海の　塩焼　ぬれぬ　ぬれぬ　ぬれぬ　和泉式部

同

いせの海　塩焼　ぬれぬ　ぬれぬ　ぬれぬ　顕照

同

伊勢の海の　塩焼　ぬれぬ　ぬれぬ　ぬれぬ　行能

夫木
伊勢乃海の塩のやきかひつめて我友なりしも恋はたえなん　衣笠内大臣
歌林良材
神風やいせ乃浦にはよるなみの常世の波や君が代の寿　読人不知
閑居百首
いせの海や塩のけふりのゆふくれにみなりしたる秋風そ吹　後九條内大臣
建保百首
伊勢の海霞む塩ひのかたとほしゆるや花の春まて見る　順徳院
同
いせ乃海のなきたる朝の霞に浦々遠く塩乃煙か　知家
同
伊勢の海乃中ほと遠き船の行末はおもへさはよのあまの釣舟　家隆
同
むかしたにいせおの塩もやくなきを今日も絶あかすらん　範宗
同
いせ乃海の塩ひも遠き夕なきに霞をみてむや拾はん　行能
同
伊勢の海の霞めるいまひろふてふ浦の塩貝手にもたぬ　康元
建長八年百首
いせの塩の浪やうしほの清渚わかさきふかひはすとこしなへ　衣笠内大臣

五十鈴川いのりのためは太神宮にまうてゝ震
恵比寿むとなそまうてゝ伊勢の国とし
ことに年すしの流をみよすの国也人のいのちなる
かくるゝも御託宣ありたる事とおもふ
続門葉集
天文十一年太神宮法楽千首
やそちまで祈れん伊勢の海やとこよの浪の数はますせて　前権僧正通海
波の上も長閑にしていせの海や流るゝわかぬ霞乃声　藤原氏直
同
あしかき浪風いせの海や春に霞む長閑の　広橋中納言
同
君か代の光とそ見るいせの海やむはまり千代の宮　中務卿宮

伊勢潟　上同

後撰　伊勢の海や遠き篝火かげ見ゆ　清輔

同　いせのうみやかぜをいたみなみのかぜ　後京極

後古今　伊勢の海やあさこぎ出でぬ神なびの　藤原基政

同　いせの海やあさぢが原をこぎ出でて　良守佐

後拾遺　伊勢の海や浦へ出でぬ海をこそ　大臣平政村

玉葉　いせの海や潮干の潟よ海士乙女　条主定忠

後後拾遺　伊せの海やあさぢが原をこぎ出でて　土御門院

新後古今　いせの海や沖つ白波たつたの山　後八条入道

御集　伊勢の海や塩風はげしなぎぬれば　順徳院

同　いせの海や浦に寄せ来る海人の子の　[illegible]

文永　伊勢の海よりき海かぜ　[illegible]　捕親

此歌はうのうたなるべしと奏上捕親和泉式部

同西本　[illegible]

同　[illegible]

同　いせの海やたつたの山の[illegible]　衣笠内大臣

同　伊勢の海やあさぢが原をこぎ出でて　[illegible]

同　[illegible]

月清　いせの海やかぜ吹かぬ日もなし　[illegible]

山家集　いせの海やたつたの山の[illegible]　後京極

伊勢の海や月の出でぬる浦ごとに　[illegible]

新六帖
伊勢物語や高野の御ぞ濯集
いせ物語やこの歌ひろめし法師家
後十番
伊勢物語や法ひのくまあるてもいみじひる歌合

光俊

五十鈴河　宮原　度會郡

内宮大炊殿の公あひ物語あるなり
十鈴河と云鏡石なり御ぞ濯河と
云ひ物語ふるてゝ云へきにあり一河二名なり
へ〜五十鈴河とは御鎮座の名なり

とゝ御ぞ濯河とは御鎮座の時係姫命の
ぞ濯なりをすきたまふ所なり
名なり五十鈴宮とは内宮乃御宮号也五十鈴
乃原とは御鎮座本記に五十鈴の原に
荒祭宮の木根かくれとゝ河
訂古今
天の岩戸かくしてはやめ十鈴の川乃流を絶せそ　匡房
内
神風やいすゝの浪をたゝせそきみをたゝへんとゝ　春宮權大夫公継
内
やまとなる光はあまの新宮風やいすゝの原に秋の月　慈円
内　頓了
神風やいすゝの河の文根者をたゝ姫名　俊成
内
いすゝ川原やまいきに秋乃夕風　大中臣明親
内

続後撰
又数たまへる岩根はいすゞ川万代までもまもるらむ　俊成

月
こゑまの絶せずあらんいすゞ川底にうつして清き心を　太上天皇

月
いすゞ河神代乃鏡のかけとめて今もくもらぬ秋の夜の月　為家

続拾遺
治まれるまもせよなほわかぬ神風やいすゞの河のきよき流よ　大蔵卿有家

新後撰
濁なき御代乃ためしにいすゞ川波もむかしに立かへるらん　荒木田延成

月
神もさぞ遠き月をもむかふまのいすゞ川みなれて清き底ひめかを　覚助親王

月
まさりくるめぐみは代よ治まりて又わか君がいすゞ川上　大中臣定忠

続千載
いすゞ川たえぬ流の底清し神代のかげをとゞめける月影　伏見院

月
澄月の影をうつしていすゞ河濁らぬよゝを渉る波かな　兼助法親王

月
いすゞ河清き流むかしより神代まで心をうつす月影　寂信法師

続後拾遺
神風やいすゞ川波数しらず万代の君をまもらん　権中納言師時

風雅
すみのぼる月も又立かへるいすゞ河流れは末も神のまにまに　太上天皇

月
澄月もいくよ世をわかぬいすゞ川ごとよみの浪の清さは　荒木田氏之

新千載
なかりける影をやつみていすゞ河いくよかけて移ろはん　読人不知

新後拾遺
いまはいのせは岩浪のをかへしも絶せぬ世々にうつろはん　荒木田短直

新続古今
いすゞ川下津岩根のかきりなき世まで君をまもらす　前中納言為忠

新葉集
五十鈴河の影をむすびにてさぞしるらめ流の瀬々は絶よもさらん　祥子内親王

月
いすゞ川そのいにしへにかへるとも君がかはらず　宗良親王

月
治まれる神代久しき五十鈴川清き流を今もたえせぬ　有氏

拾玉
人ならし宮人とちはいすゞ川原の秋の夕暮　慈鎮

道とゝ[illegible]君の心は[illegible]川なと 荒木田氏良
月
[illegible]
月
[illegible]川波 荒木田成定
家集
[illegible]
月
いとゝ川千年[illegible]秋の浪[illegible]風のかしハ 家隆
月
[illegible]風[illegible]て[illegible]月 藤原忠鎮
月
[illegible]て絶せぬをとゝ[illegible]
月
[illegible]川波[illegible]定家
月
[illegible]川[illegible]の後景拾
月
千年[illegible]世[illegible] 兼好法師
御集
[illegible]川流[illegible]絶[illegible]世[illegible]白波 須徳院

月
[illegible]川[illegible]と[illegible]
月
支木
一方代[illegible]君[illegible]
月
[illegible]川波[illegible]山[illegible] 定家
月
[illegible]
月
[illegible]代[illegible] 雅忠
月
[illegible]秋風[illegible]麻[illegible] 為家
月
[illegible]風[illegible] 内大臣
月
[illegible]川[illegible]波[illegible] 後成

公卿勅使[illegible]左衛門内[illegible]宰相[illegible]
海[illegible]内[illegible]
月
世界[illegible]内[illegible]風 西行

千五百番
御集

いせ川のあとたづねまほしみかるもすゝ雲 越前

五十首川社むら雨のくれ天照神そ見に来るらん 信多羅尼

神道百首

いすゝ河清き流よやそ下はゝ根と志ゝ見ゆ 兼邦

後鳥羽集

五十首川ゝ流よみ侍りける

ひなりもるとゝくく

元享元年北御門冊合

ゝ十首川ゝ流れ侍りける

あとしたゝる浪の白雲 前権僧正通海

いせ河清き流に沈月影みもふき惠ゝ寄 憲家女

月

ゝ流なきて流を絶せぬいせの山ちに月ゝ河 度會延明

月

いせ河の社代ゝ沈神ゝ流をそ思ふ流ゝ 度會盛行

建武元年度會朝棟亭會

月影やたゝ秋と物さびしく神社代も甲辛行と 度會朝棟

月

くりわる代影も玉ゝ流ていすゝ川清き流よ沖ゝ月 度會常彦

月

岩秋ゝ影と物していすゝ川ゝ流ひ月影ゝ流ゝ 大中臣宣通

月

瀧落きいせ河波ゝ沖ゝ社代ゝ秋と月やとゝん 荒木田海時

月

いすゝ川ゝ上清き流をゝ月もすむ 度會延誠

月

社代ゝ沖ゝ流てやいすゝ川流をゝ月もゝん 度會延春

月

いすゝの社代ゝ秋と物しやかゝ月影ゝん 度會行晨

月

五十首川首ゝ月のゝ月影ゝ寄ゝ代ゝ中ゝん 阿闍梨秀海

月

いせ川ゝ月ゝ玉ゝ月影ゝ社代ゝ秋影ゝ月ゝ 蓮忍

月

影ゝ流ゝ月ゝ月ゝ社ゝ河ゝ流ゝ月ゝ今ゝ月ゝ秋ゝ月ゝ 宗晴

月

岩ゝ瀬ゝ月ゝ月ゝ社ゝ川ゝ社代ゝ秋ゝ月ゝ月ゝ 藤原範方

月

いせ河の社ゝ月ゝ月影ゝ月ゝ月ゝ今ゝ月影ゝ月 生市丸

月
秋の月と流れいす川清き流に影をやどして
月
くもゐはるいす川乃月や神のあらはす光なるらん
月
いとゝ深きめぐりもいつ宮にて祭とゝ海ゝ秋の月
天文十一年太神宮法楽十首
月
月ゝ川ゆきゝ川ゆきゝ川ゆきゝ川ゆきゝ波ゆきゝ風　飛鳥井大納言
月
氷を波やゝゝ玉ゝ月乃ふすか原ハ霞そもしん　中務卿宮
月
秋ゝ月ふすゝ浪神をて海ゝなるゝ秋ゝ立ゝ
月
まゝと見いゝ月乃ゝ少ゝ浪ゝ八ゝ月　中院宰相中将
参詣記
あまてゝらゝ月乃ゝ月ゝ乃ゝ月ゝ乃ゝ世ゝ八神や唐ん　士佛
法印

礒宮　度會郡

内宮大宮乃際より倭姫命の居給へる
所之又礒宮と号ス又宇治乃横屋
中也此宮の御半也日本紀ニ随太神教
其祠立於伊勢国国奥齊宮ニ
五十鈴川上是謂礒宮此又あ
く心得て礒宮と本宮の幸なり
といふるも大なる僻見也永祢之
祝記乃文ゝゝおすゝあゝゝ又
伊蘇宮とゝ多氣郡よあれ

[illegible]
玲川上の儀宮なり

後古今
神祇百首
祈風や大井の川の磯の波常世の浦の書て出る師絶
浪風の凌過ぬ芦の枯ゝ[illegible]人神やをん　元長

五百枝杉　度會郡

大百枝杉しの宮の神木なりそ
二ゝ所の内三の鳥居の傍尾張
[illegible]の過て[illegible]

[illegible]山田の原の杉の村立千枝の
杉の百枝の杉あり枝ゝ皆ゝ[illegible]
[illegible]内宮の八百枝の松又
上もなき峯の松ゝ[illegible]

長歌
百姓賞栄管作五穀物雑置足戸指勢奴五百
枝杉之深縁如不業替伊麻勢太御世　士佛法
神祇百首
祈風や百枝の宮の杉の[illegible]元長

伊佐奈岐宮　度會郡

宇治郷中村の里社小て森あり是を月讀の森と云昔月讀の東八町讀西し伊佐奈岐（イサナ）

奈岐伊佐奈弥（ナキイサナミ）宮也去大宮北（ヲヽ）三里東（ハ）

讀西伊佐奈岐伊佐奈弥各南向（ニ）座（ス）

弘安百首

あまのつゝみ月讀ゝ入ていさゝ是ぬさ捧ぐ　後九条内大臣

伊佐奈弥　上同

久安百首

いさゝ是ぬさ入れて見てゆふ捧ぐ　実清朝臣

岩出　度會郡

文河永源寺一里伊勢川上に名水

村あり此所に祭る所なり

伊勢に祭る補親の立ち給ふ寺なり

三味堂入佛奥村せうとう佛堂

とつゝしひとて

新拾遺

かはのゝ岩出とも云ひやう秋月の吹てうん　伊勢

伊勢に佛に祭る親定卿いとて云

東に向て向山つゝゆなり

家集

ちとせ方やかゝ山乃出とも云ふ知へ　後拾

伊氣浦　　度會郡

松下村の東より海の方へ山中へ入て入海と
いけの浦と云　臘月下弦の名
魚をとりてとりくらしたる事
世記曰其塩漬(ソノアハ三チソフ)澪浦(ヲ)名伊氣浦(ノ)号(ク)

夫木
雲に吹沈の浦風海の月の山陰なれる入潮の音　寂阿

岩波里　　度會郡

此所にて古人所宮川とよむ
なまれる所の遠なるべし

新拾遺
秋風に沖の白波立そへて入潮の音の里　大中臣定忠

月
ぬれてこそ袖のわをまされ秋萩の露の宿る岩波の里　荒木田尚良
月
袖つゆ移ぬ春の月の新更て川岸ちかの里　荒木田成言
月
雲の秋月やうつて岩波の里　荒木田延行
月
風海の秋の夕へ入柳を見れば岩波のまと　偽称行宝
月
里の名あれ風や岩波のまと　法服能用
月
月清し秋の海と秋風や岩波の岩の里　荒木田成宏
月
月を松にしてこそ海の風川や清き海の岩波の里　荒木田長與
月
松に吹秋の川風吉さして月清海の岩波入ぬ　荒木田氏行
月
吉風に川岸ちかく岩波の里もまやの月の秋　大法師良丞
月
月やとる月を春さむ秋の更て沖の吉波の岩波　荒木田行頼

円
墨俣川を渡ぬ者や更ぬ川吉すあの瀬ハ此岩波 大法師 円親
円
ふるそ川尺ふるてや秋風ハ寒ふ行ふ者の岩波ハ堅 素木田 定顕
円
秋ふ者や更ぬ月ハ新ふ者て川風さむ岩波の雪 大法師 良基
円
淀川ハひろ地なり支河や海ふ入つ〻岩波ハ雪 大法師 尊親
円
淀川の新ふ者ハ秋ふ入川吉海ハ岩波の雪 大法師 良惠

伊勢宮　森　多氣郡

斎内親王ハ伊勢ハ伊勢也宮ハ多
二雪河也雨ふ者ふ氣郡ふ氣郡ふ者
今さいふ村ふ者ハ垂仁天皇の比倭
姫命ハ五百ハ伊勢宮大宮の

孫也ふれを儀宮ふ者ふ横殿ふ者ふ
し右ハ者ふ者ぬ者ふ景行天皇
十年乃春字治ハ斎宮ふ者ふ氣郡
ふ者し者ふ者ふ百野皇女久須姫を
皇太神乃御杖代ハ定め給ひ倭姫
皇女ふ者字治入機殿ハ儀宮ハ
坐し者ふ者ふ世記ふ者ふ者ふ斎
内親王ふ者崇神天皇御女豊鋤入
姫命ふ者ハ姫宮ハ伊勢ふ者流浦女將
子内親王ハ者ハ七十又代相続し者ふ

断絶しもるなん

郁芳門院伊勢よたくしあるもの時六条

右大臣はしのあるしまにてうく

はるもの紅ひとへにひぬ時の人はのの

たにさくしけまは

金葉

神祭はあるもとなるゆめ見るもまぬ時はあるべ　六条左大臣小方

伊勢ア　秋王おくはよて年をたにう

秋夜本立てうさうとてつい頃も

なきやうてなるもたわるとあく

山家集

つゆ又秋の夜ないつれく志めはうもたちとうくん　西行

伊勢物語さい夜ものくやまくかん志のひ

よ　松尾寺　れとれ

新仙家集

万代と天乃宮まてきこ西ゆ松尾寺へ今ゆ　兼盛

ちゆれ　ア乃かのえさるれりの西伊世

いのきの夜れ志ひるてひるて松尾寺れ

琴ゆ入りけやと　完ア　まのうさ

家集

春とさもしこるもいるる松風を君よひるまて西そ　添須

同

ものそにのをてもいのうるれ　ある舟寺れ志あれ下弟　長明

いせれ舟寺ゆ　ア　やわるア花のなれ

たるとを先ものれ花の咲るそとたる

てやとをとゝ侍りてにあめ

支本 ふれる波ハ梅はなれ出てをめんとをとゝきす 能宣

同 なのきゝあめにひゝん新廉の新て所なとゝ家隆

同 ゝゝる秋をゝし沢のゝ花咲れるうきつゝ為家

五十師原 三井 清水 鈴廉郡

東海道石薬師より三町ゝ北ゝ山道

村とゝあり此里ハ禁ゝ清あり見とゝ

十師ハ原ゝ十師清ゝゝ山ゝ古屋の

侍ゝ山清ゝ侍て禁ゝ毎ゝ

減竜ハ硯ゝゝはこ里ゝなり

山ゝ里村ゝ古人ハ奇人赤人ゝん

在原ゝ山ゝ赤人ハ古屋ゝ

山上ゝ東西百間南北八十間

ほゝ山田ゝ弁本ハ老松今

ゝあ又鎌倉頼朝卿ハ遠馬

万葉十三 生嘆(イナツキ)ゝ山ゝ

ゝゝゝあゝかゝき山ゝ

支本 山ゝ道ハ三井ハ

支本 月ハ雲ハ雲ハ山ゝ道ハ三井ハ為家

同 ゝゝゝ山ゝ道ハ三井ハ

法親王 澄覚

泉野　鈴鹿郡

泉野は尾張の津の西の方
りの西にのり長太村（ナカフ）あり
甲斐川とうゝ弓削泉村（ユケ）とゝ（ミ）仕選
の本道（おうけ）泉村と泉野原と云

名奇
伊勢かへひろ志ろ浦の川切（ハツ）れ野原　長羽

一志浦　一志郡

雲（ミ）の浦より雲津（クモツ）星合（ホシアイ）まで
乃浦を一志乃浦やとゝ

十載
伊勢浦や一志の浦乃蜑（あま）たちの海神（わたつみ）ぬるる袖のし　道因法師

新古今
今日とてや磯の揺（ゆ）んいせ浦や一志浦の蜑（あま）乙女　後成

新勅撰
梓乃一志浦は志の月蜑のつ縄くるもひくり　家長朝臣

玉葉
月清し小船更行いせ浦や一志浦より千鳥なく　錦倉右大臣

新古遺
ひとゝ（ヒ）かゝ一志の蜑（あま）はあれ海人（あま）を宮こ竜のなわ　法眼源美

新千集
いせ浦や一志浦乃蜑（あま）乙女（をとめ）ゝ神やはなれ　後鳥羽院

一志池　一志郡

一志郡にて一志乃池とゝ
池なり戸（キ）本村に風ゝの池
とて収立十町ほど横二町ほど

池あり見なるんの津より南二里

新古今 文本
榊葉もろ乃山風吹ぬん一志ハ池よあるもろ波 定国

古記
風ちや乃池乃波とたつもてそあの一志ハさひしとそ

礒等寺峠　志摩国

答志郡ちくうハ南乃はゝよ指本

神楽
ちくうの先と磯ケ峠と云先うんの

六百番
ちさこあるいそゝの浦よ鯛つる蜑乃

中宮権大夫
ちくうよあまあすり蜑とあるめ拾ハ

文本
伊勢浦やいそゝの浦ハ鈴音ハ有房

同
浦ゝまよ立別まあの浦やいそゝの浦乃音ハ村清

同
ちくうハいせ乃浦萩下さ千いそゝの浦よ千鳥鳴 藤原成方

同
伊勢浦やいそゝの浦よ波ハ月ハ乃ぞよ仲清あけぬ日 ゆ

神道百首
つゝまよハいそゝの浦よ鯛つるとゝ宮ハ有きゝ 兼邦

伊良虞鳩　峠

いゝこ乃三河国ハ屋形乃明よ

ゆ久里むハ入海也ちゝ

万葉集よ伊勢国伊良虞鳩と

あはれなり此集にならひなき志摩国
の名所おほき事の皆見えにけり

麻続王流於伊勢国伊良虞嶋之時人哀
傷作歌

万葉一
うつ蝉乃命をおしミ波にひていらこの嶋の玉もかりはむ　十市皇女

千載
玉藻かるいらこか崎の岩根松幾代まてにか年のへぬらん　顕季

続後撰
玉藻かるいらこか崎の延喜もふることやかくまて神のめくらん　藤原道縄

続後拾遺
あまのかるいらこの浦のうつせ貝むなしき名のミたつ時もかな　臣房

風雅
風わたるいらこの浦の夕されは松吹のえに波の花咲なり　入道覚助

夫木
白波のいらこの嶋の三重人今するもよるの浦めや　基俊

同
塩さゐにいらこの嶋へこく舟にいものるらんかあらき嶋まを　人丸

同
嶋ひくいらこの浦の塩さひによわたる千鳥の声かすむなり　家隆

同
浪のおとのいらこの嶋をとふ舟もやよ夜波まにまきのそとまり　周房

同
あさ日さすいらこの浦にさしも夜まてあまつ空のむこうなる　西行

同
いらこ崎にかつをつり舟ならひうきてはかちの波にうかひてそよる　読人不知

同
みさこゐるいらこの浦の松も世の波に古る道をしらん　為忠

同
なくさめにひろへも神そぬれまさもきのふいらこの浦に忘れ貝　清輔

同
岩にさしいらこの浦の松かよりて流る人の袂にかゝる

同
こゑたてゝいらこの嶋乃浜千とりや焼塩名乃煙さえぬ八　西行法師

同
嶋ひくいらこの浦の波高ミやもゝへ夜かねむなし貝なき　隆祐朝臣

伊勢雄宮

文木
月新しきあるじやまこの人は春のいせの浦の海人　衛

家田松

同
釣舟を家田の松に寄こあてあつのやの板橋　隆心法師

去来見山

万葉一
吾妹子といさ見山を高みかもやまずぬぬ人の石上大臣

文木
見まくほしき人の山は月日にあつ人のてらさ　顕朝

新六帖
咲ぬれんいさ見山の桜花雲にまがふ衣笠内大臣

稲井

金葉
万代のあるいなのあるせてる民やはをうる君の代に　明顕

須萩　荒須追

慶會郡

須萩て二見山の内三津村の南に
ひくあり此浦より須萩と称ぶ
海人の海苔とる海辺
けさ常にかりて花まれもしの人

万葉四
碁檀越住伊勢国時留妻作歌
神風やいせの須萩打なびき須人（須人不知）
つゆあつに伊勢のなりをと辞とる

時人伊勢に行ふりまてつかうまつりける

千載

いるせ人伊勢の浦萩さそはねく志ほ波の波よ折ふし源俊重

同

あつま歌と伊勢の浦萩秋来て妹恋しらに風吹 藤原基俊

新古今

常夏の八月と春と詠まて波よりくいせの浦萩 越前

同

さそふ浦八十潮の波をくらかい表はいせの浦萩 宜秋門院丹後

続古今

藤の色いせの浦萩常なるむとの松よりやる月乗 鎌倉右大臣

同

さそふやいせの浦萩風吹はあわれ志わるとも 正二位顕季

新拾遺

伊勢海や月よりあ浦萩れりねも寄て秋の風 法印源兼

同

いせ志まや浦風そよく浦萩れ寄れ松原も神さび 後西園寺

新葉集

秋風や浦あらすし中津波なのこと志を伊勢の浦萩 頼意

同

いつ志て伊勢の浦萩風のおとまりはほと宮に志ら 入道前右大臣

月清集

君と行ふ時もあれや神風の方に志ら浦の月 後京極

拾玉

海月と志秋の神風やいせの浦萩波よそ志 慈鎮

同

七ちの浦萩うら浦萩枝葉の月のあはれも 荒木田満良

同

吹送る風の月と行もなくもうまいせの浦萩 荒木田成定

同

吹ちる塩やの煙あらしいせの浦萩 慈鎮

同

秋風や吹てもさ志ら波のうらいせの浦萩 同

山家集

塩風のいせの浦萩也ほの植ま波ひ志ら波 西行

家集

いせの海の塩波よなひく浦萩の月のなきあるよの声 寂蓮

同

浦萩の生て亦よ海ら志て夕雲かの月の嵐なる 人丸

家集
二見うらいせの濱萩ちるのあてかまくまをしたそ　定家
御集
秋の夜のけきはなは月さえて稚さしいせの濱萩　後鳥羽院
同
濱萩と妹とちらはあはてぬ嵐の神の袖の風　頌德院
同
風さむし日数もいとは岩ほのいはんいせの濱萩　同
拾遺愚草
月よあひ伊勢の濱萩濱ちとりや若き濱をの秋と高之　定家
千五百番
秋立てきのふかなしの波風は濱なくいせの濱萩　後鳥羽院
夫木
名ゆのうせ入浦波さしくて吉野の伊勢の濱萩　長方
同
濱風はいせの濱萩うら枯く浪の枕も寒そとき　後成
同
風寒しいせの濱萩うら枯はあかりもなしに枯くなり　匡房
百首
忘れぬるかけの浪の濱萩　後松院

天文十二年大神宮千首
秋ちをとる風ふそ絶をとる濱波の若ふいせの濱萩　前内大臣

林崎

内宮宇治橋の西の山法尾橋より
敷岳の東の尾橋と林橋と云津長社の上
名寄
林しゆまそしいそ西るきて見ぬ宮と打添つ　長明

濱村

三重郡

東海道宇月市の南の濱田村
しのあり先と濱村とりしの
夫木
秋俊ぬ濱村の濱の永安　長明
右濱村しの濱とをなりけりてこの濱と

鈴鹿乃郡よりは渡乃行さきにみゆる八日
市のよりは西なりといひきこえある

針河

家集
かゝ夜はまた針河乃青柳乃糸にかゝる春の末になりけり　躬恒

錦嶋

伊勢より熊野への道長嶋(ナガシマ)のまへに海
乃中に嶋を見る錦嶋と云前にあり
いまは北小嶋と袖師浦(ソデシノ)にあり

山家集
伊勢のへちの錦の嶋にいそわの紅葉のちりけるを
浪にしく紅葉の色をあらふゆへに錦の嶋と云にやあるらん　西行

西複山

伊勢にもり山と申す所に侍りけるに庵に
梅かうばしくにほひけるを

山家集
柴の庵にとくとく梅の匂ひ来てやさしき方もあるすみかかな　西行

星河　負辨郡

桑名より一里あまり上額田(ヌカタ)村の川むかひなり
神名帳負辨(ニイナベ)郡星河ノ社とあり此所よ
星河山安渡寺といふもあり

名寄
まよひ道は橋もなきぬ郡の守するに星河の　長明

夫木
明ぬよりうきさり行星河に逢ふ夜もや君しるへ　光俊

日生合潟　一志郡

此所牽牛織女の会所とぞ伝へ侍り

天文
伊勢の海堅も海のき秋の海今宵新月の日生合の潟

士御門御剣表

浮木うつ雲の岸辺の新月の日生合の潟もうつるは祐華

名音
日生合の潟とは誰の名つけ侍ぬ

前伊宮

七夕の逢別の日生合の潟やあり明の月出雲

六帖
あまの川夏の日生合の潟風は波のうつ〻をかしき　讀人不知

現存六帖
いせの海のあまの釣舟はかりやもとの日生合の潟　後九条内大臣

題林
伊勢の海や天の河原のうつ〻なる日生合の潟　真親

菩提山　度會郡

宇治郷中村の東の山下菩提山神宮寺
中村より菩提山の間十五町の
の流まで橋を折りて渡る貴
天仁の頃まで丈六堂本堂多宝塔等
宝亀年間も長山院御字弘長二
年十月廿九日の回禄より悉く灰燼さ
れ
より古記に云ふ今の丈六の仏殿の
天平神護二年九月より丈六の仏像と伊
勢太神寺より造り続日本紀にあり

寺は佛像のすゝ古老の作也又慶長は
比叡僧上人と云し一道世ゝ神宮寺は奥
は一宇と建立す是を称住院しは
伊勢に菩提山上人月に対して述懐せしは 西行
出家集別本
めぐりあひて見しやそれとも忘れぬ月はかはらぬ月の影かは

豊受宮　度會郡

外宮は御神天照豊受皇太神宮とも
また天神第一國常立尊(クニノトコタチノミコト)すおはします
天御中主尊(アメノミナカヌシノミコト)とも同御神也とかく

後千載
宮はあまはらのみとのまつりて祈ることは 度會行忠
大神宮はよろづよをかけてなりけり百首の哥は井より
後拾遺抄遺
かみをかけてかきしるしたる人 俊成
千五百番
そのかみや祈しらはをきてをしたる君をかしこまりをる 土御門内大臣
同
榊はるる山ゝ人は神あそひ亭は神はかしこし 右陽門院紀伊
実木
神風やみたのかはの義神はかしこしとよろこぶ人の神さびてをる 家長
奉詠百首
何ことのおもひ出にかはなるとは思へとも西行
神祇百首
天照皇大神の世ゝ人の世ゝすのは年は書をり元長

見懐浦

万葉十二
時つかせ見の浦に志をまはの志らく君をみんかすまて　読人不知

名寄
白雲の立なる見の浦の嵐に空晴まさる秋の夜の月　頼氏

同
志ほるゝを孫をやみらん時つかせ見の浦の夜の月影　中務

土貢嶋　外宮トモ 春宮トモ　度會郡

土貢嶋と云南の方鰆(タレ)搦(カラ)乃つきなか浦俗に
こゝくといふ柏(カレハ十カレ)淤の神事むかしハ此嶋より
太神宮へ柏を得つくるよしなりけむ祭凡家
まて内宮年中行事ニ曰柏流神事七月

宮神名秘書云山谷水変成耳水浸
潤苗稼得其全稔故有風神祭名曰柏
流也豊年則浮流通凶年則沈覆損四月
七月祭之云々云風日祈神事と云ハ是也

藻塩
いかにして海の長柏なかくそ我むひろきめぐみを　寂阿

同
思ひあまり三津の柏にとふことの志るしの志るしハ汲くらん　小侍従

同
あらひに三角柏ま立てし志のむにうちかすかなり　斎宮

拾玉
神風や三角柏にこと問ひてたつともまねくてまつる

同
志らせ給や孫のひろうの此長柏なかのはくまの神風　荒木田氏良

同
百草のそのゝ葉たひ吹神風ゑ三乃柏のまさそふ　荒木田延季

拾玉
神祇百首

いつのよか奥の海辺の梅の木に
花咲かれぬと今を人待つ　元長

千枝松

神宮一の鳥居より一町ほど南にあり俗
古千枝と云文司（ミヤツカサ）うへ松ともいふ
て千枝の松ともいふ俗ほそ松と云先也
正保元年七月廿九日八暴風ふき木顛倒
して今一株のこまり
太神宮にまいてうり附千枝の松と云傳

度會郡

新後古今
よしとも卿の弟乃吉の一谷の戦に行家の千枝の松の下に陣
建武元年度會朝棟卒會ヨリ　勝定院大日本記
こゝのひやく山田原乃沖に千枝の松も見ゆ詠歌

千尋濱

度會郡

海

なる海のむりい花（ハナ）の浦の海と千尋（チヒロ）
乃濱と濱ゝも松
西の濱の前神宮まいりの時
ん所にはりく元の事伝をなるり
神宮よりさいまりのひは出ハをあるあた
さのき山の松に結ひ付おの也伝けり

後撰

繰返す海人の袖の涙ゆゑ袖ぬれぬ日の乾くまもなし　敦忠卿

家集

あひ見てのちの心にくらべては今日のなげきは何とかはする　兼輔

同

物思へば沢の蛍も我が身より あくがれいでぬと思ふ　元輔

千五百番

君をのみ思ひ寝の床の夢なれば 明けぬ夜の間の逢ふ瀬なりけり　通具

大木天徳二年

いせの海人の袖の涙のかかれば 袖の上の波の数かとぞ見る　元輔

夫木

打ちてしなのはきの代にとぞ思ふ 袖の上の波の数かとぞ見る　西園寺入道大納言

同

永日の延べのたく縄打ちてしなの海に寄せしひく　家隆

同

たく縄とよ海人の涙の袖にかけて世をつまじ　讀人不知

天文十一年大神宮千首

打ちあげの浪もよ海人の涙にぬれぬ世の中の網代　万里小路中納言